

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について
病虫害発生予察特殊報（第 2 号）を下記のとおり発表したので送付します。

令和 2 年度 病虫害発生予察特殊報（第 2 号）

令和 3 年 3 月 17 日
愛 媛 県病虫害名 ビワキジラミ *Cacopsylla biwa*

作物名 ビワ

特殊報の内容 愛媛県における発生の初確認

1 発生地域 四国中央市

2 発生経過

ビワキジラミは、平成 24 年に徳島県にて国内で初めて発生が確認されたビワの害虫であり、平成 28 年には香川県で確認されるなど、発生地域が拡大傾向にあった。このため、徳島県・香川県境のビワ樹を中心に黄色粘着トラップを設置・調査していたところ、令和 3 年 2 月下旬に本種とみられるキジラミが誘殺された（写真 1）。その後、愛媛県農林水産研究所果樹研究センターにおいて PCR 遺伝子診断により、ビワキジラミであることが確認された。これを受け、3 月上旬までにトラップ周辺のビワ樹及び県下各地のビワ栽培園において発生状況調査を行ったが、現時点ではビワ樹上での発生は確認されていない。

3 他県の発生状況（特殊報発表年度）

徳島県（H24）、香川県（H28）、兵庫県（H29）、和歌山県（H30）、岡山県（R2）

4 形態

成虫は小さなセミのような外観をしており、全長は 2.3～3.8mm。体色は季節によりやや異なり、4～6 月に出現する春夏型は黄褐色、10 月～翌 3 月に出現する秋冬型は暗褐色となるが、季節の変わり目にはそれらの中間的な色彩も見られる（写真 2、3）。いずれの季節型も胸部に黄白色の縦条や小斑紋があり、前翅は透明でその外縁に沿って黄褐色の不明瞭な小斑紋がある。

幼虫は扁平な楕円形で、体色は黄白色で時に緑色味を帯びる（写真 4）。

5 生態

ビワキジラミが寄生・増殖できる植物はビワだけであり、ビワ樹上で年間に 5 回程度世代を繰り返すとされる。春先には花や幼果、新芽で増殖し、成虫が 5～6 月頃に多発生する。7 月中旬～8 月の盛夏には成虫が樹冠内部に隠れて休眠状態に入り、枝先の葉上にはほとんどみられなくなる。9 月以降に再び活動を始め、枝先に集まって交尾し花蕾に産卵し世代を重ねる。その後は冬季も休眠することなくビワ樹上で活動しながら越冬する。

成虫は葉裏の主脈に沿って寄生し師管液を吸汁する。幼虫は花芽の基部や果梗、芽鱗の下などの隙間に寄生して師管液を吸汁し、甘露や白色ロウ物質を排出する。

6 被害の特徴

主に幼虫が排出する甘露と呼ばれる排泄物には、糖分が含まれており、この排泄物が付着した果実や葉に糸状菌（カビ）が発生し、黒く汚損される「すす病」被害となる（写真 5）。果実が肥

大・成熟する5～6月頃に顕著な被害をもたらすが、袋かけを行う前の3月時点で既に果房や幼果の隙間に寄生しているため、袋かけを行っても被害が発生する（写真6）。

7 防除対策

- (1) 「すす病」の発生や5～6月の多発生期の葉裏に寄生する成虫を目印として、早期発見に努める。成虫は黄色に誘引されるため、侵入が警戒される地域では黄色粘着トラップによるモニタリングを行う。
- (2) モニタリングにより発生が確認された園地では、果実袋かけ前の3月頃と、摘房・摘蕾後の11月中旬頃に薬剤を散布する（表1）。また、徳島県と香川県の事例から、1年に最大10kmの速さで分布を広げていることから、新たに発見された地点から半径10km圏内のビワ栽培園でも防除を実施する。
- (3) 幼虫は花房の奥深くや狭い隙間に潜んでいることや、ビワ枝葉の表面を覆う微毛が薬液をはじくことから、防除時には機能性展着剤を加用し、散布薬量を十分量確保し丁寧に散布する。

8 参考資料

井上広光(2015)：ビワを加害する新種の侵入害虫ビワキジラミ, 植物防疫第69巻第2号, P. 97-101
 農業・食品産業技術総合研究機構（2020）：ビワキジラミ防除のための総合技術マニュアル
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134358.html

表1 ビワキジラミに適用のある登録農薬一覧

農薬の種類	IRAC コード	希釈倍率	使用時期	使用回数
スプラサイド乳剤 40	1 B	1,500 倍	開花期まで	2 回以内
サンマイト水和剤	21A	3,000 倍	収穫3日前まで	2 回以内
スカウトフロアブル	3 A	2,000 倍	収穫3日前まで	3 回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	2,000 倍	収穫前日まで	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4 A	2,000 倍	収穫前日まで	あわせて 2 回以内
オールスタースプレー	4 A	原液	収穫前日まで	



写真1 黄色粘着トラップに捕獲されたビワキジラミ成虫



写真2 ビワキジラミ成虫（春夏型）



写真3 ビワキジラミ成虫（秋冬型）



写真4 ビワキジラミ幼虫



写真5 すず病の被害



写真6 袋かけた果実の被害

(写真2～6は農研機構提供)